

平成25年度 第2回 多治見市子育て支援会議 議事録

○日時：平成26年2月28日（金）10：00～12：00

○場所：多治見市産業文化センター中会議室

○出席者：（敬称略、以下同じ）

（委員15名）

今村光章会長、宮村登美子副会長、伊藤威一郎委員、白井友則委員、齋藤英久委員、齋藤由美委員、土岐正典委員、加藤悦男委員、稲垣信子委員、齋藤由美委員、坂崎誠子委員、堀裕一委員、山本博子委員、白石真美委員、三田寺正恵委員

（委員代理）高木貴代子愛児幼稚園園長

（事務局）子ども支援課 額額課長、三品リーダー、杉村リーダー、水野

（欠席者5名）

春田美和委員、堀尾憲慈委員、松原裕見子委員、市原邦彦委員、櫻井香好委員

○議題

1. 子ども・子育て支援に関するニーズ調査の速報値について
2. 「必要量の見込み」について
3. 「教育・保育提供区域」の設定について

○10時00分 事務局の司会により開会

事務局 本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。
これより、第2回多治見市子育て支援会議を開催いたします。
開催に当たりまして、堀尾委員、市原委員、春田委員、櫻井委員からご欠席の連絡を頂いております。また、公立幼稚園代表である松原委員が園の行事のために出席できませんので、代わりまして愛児幼稚園の高木園長に出席いただいております。
それでは、今村会長より進行をお願いします。

会 長 みなさま、おはようございます。本日はお集まりいただきましてありがとうございます。
まず、本会議の流れについて、説明させていただきます。
本日、議題は3つございますが、議題に入る前に「アイスブレイク」というものにお付き合いいただきたいと思います。
その後、議題1として、ニーズ調査の速報値について事務局より説明後、委員の皆さまよりご意見・ご質問をいただきます。

さらに、議題2として、保育の必要量の見込みについて、事務局より説明があります。この内容が本日のメインとなりますが、委員の皆さまよりご意見・ご質問をいただきます。

続いて、議題3として、教育・保育園提供区域の設定について、事務局より説明後、皆さまよりご意見・ご質問をいただきます。

本日の会議は資料も多くありまして、全て頭の中に入れて議論することは難しいと思います。このため、次回もう一度議論する機会を設けたいと思いますので、今回は議題の整理をしながらの会議としたいと思います。

前回の会議から実現したことが一つあります。会議の時間帯が午前中になりました。これからも、ご意見をいただければ一つ一つ実現することもあると思いますので、ご意見をお願いいたします。

会 長 皆様は「アイスブレイク」という言葉をご存じでしょうか。
知らないもの同士、意見が言いにくい状態を指す「アイス」を「ブレイク」壊していくことを言います。委員の皆さまには、忌憚なくご意見を交換していただくために、少しだけこのアイスブレイクにお付き合い頂きたいと思えます。

— 「アイスブレイク」の実施 —

会 長 それでは、会議に戻らせていただきます。
子育て支援事業の必要量の見込みと教育・保育提供区域の設定については、3月の末に岐阜県に報告する必要があります。
まず、事務局の案について説明をした後、皆さまに必要量の見込みについて議論していただきたいと思えます。この内容は、本日で議論しきれないと思えますので、次回の会議を併せて、議論いただき、3月の末に岐阜県に報告したいと思っております。
まず、議題1のニーズ調査の速報値について事務局より説明願います。

— 事務局資料により説明（議事1. ニーズ調査の速報値について） —

会 長 共通認識として持っておいて頂きたい多治見市の特徴があります。就学前児童の結果についてですが、まず1点目として、「問16 利用したい平日の教育・保育の事業」について、保育園が56.8%、幼稚園が53.4%、預かり保育が25.1%、認定子ども園が16.0%となっていることについてです。続いて2点目として、「問12 母親の就労状況」についてです。さらに3点目として、「問22-① 宛名のお子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法」について、「母親が休んだ」

が 67.0%となっていることについてです。

続いて、小学校児童の結果についてですが、1番のポイントが「問 16 放課後児童クラブの利用について」74.3%の方が「利用する必要がない」と回答しているながら、「高学年になっても利用したい」と思う方が 12.6%いることです。また、「問 12 母親の就労状況」について、「パート・アルバイト」が 52.5%となっており、そのような就労形態にせざるを得ないのか、もしくは希望してそうしておられるのかは分かりませんが、頭に入れておきたい部分であると思います。

さらに、「問 19-① 病気の際の対応」についても、「母親が休んだ」が 78.2%となっていることがポイントではないかと思っています。

事務局より、その他にアンケートの内容についてポイントとなるような設問があればご説明をお願いします。

事務局 小学校児童の「問 15 放課後児童クラブの利用」について、現在利用していない方が 90.8%となっていることがポイントではないかと思えます。

会 長 調査に関する質問について、皆様からのご意見・ご質問はございますか。

委 員 アンケート調査は私の家にも届いたのですが、届いた日から締切までの期間が短いように感じました。このような調査の場合、回答率が 50~60%というのは一般的なのでしょうか。

事務局 これまで行ってきた福祉関係のアンケートの結果から、回収率は 50%程度が一般的と考えております。

委 員 自由意見はどのように集約するのですか。

事務局 自由意見は内容毎にキーワードで分類・集約いたします。

会 長 調査の内容について、認識の共有をしたいと思いますので、皆様からのご意見・ご質問はございますか。

委 員 就学前児童の「問 9 緊急時にお子さんを見ていただける知人・友人はいますか」という質問で、「いる」が 13.1%であり、また「問 9-2 気兼ねなく見てもらえる」がその半数程度になっています。この結果については、課題が残ると思います。

委 員 就学前児童の「問 24 利用したい事業（不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等）はありますか」という質問で、利用したい理由に「私用（買

物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」という項目があります。これについて、幼稚園で実施している預かり保育では、預けるために通院の証明書が必要になっています。リフレッシュという言葉はどのようにとるかによりますが、気兼ねなく見てもらえる友人・知人が少ないという結果と併せて、子育て中のお母さんが何を大変と思っているかの声を拾っていく必要があると思います。

委員 一時預かりの際に、理由を問うかという意見だと思うのですか、私の幼稚園では通院の証明書を出す等の措置はとっていません。

委員 入園している幼稚園の園児であれば、そのような措置をとれますが、入園前の園児に対する市の預かり事業では預ける理由を問われることがあります。事業開始当初は、このような制約はありませんでしたが、希望者が多く、込み合ってきたための措置であると思います。預かり事業については、今考える時期に来ていると思います。

委員 頼れる人が身近にいないときに、預かり事業等でいきなりは受け入れてくれないという問題があります。困っている時を見極めて、受け入れていく体制を整えていかなければいけないと思います。

委員 就学前児童の「問 22-② 幼児保育を利用したいと思いましたが」という質問に対して、「利用したいとは思わない」が 65.9%となっており、現状ではニーズが少ないことに驚きました。

一方で、幼児保育を利用する場合に「問 22-③ 利用したい幼児保育の事業形態」に関する質問で、「小児科を併設した施設」が 88.3%となっており、4月から病児保育事業が開始した一方で、サービスが提供しきれていないこともあり、お母さんたちのニーズが高いということを認識させられました。

会長 続いての議題に進みたいと思います。3月の末に県へ報告する必要があるため、この議題が今回のメインとなります。「議事2 必要量の見込み」について事務局より説明願います。

― 事務局資料により説明（議事2. 必要量の見込みについて） ―

会長 各区域に幼稚園・保育所その他諸々の施設の必要量の見込みを、アンケート結果や区域毎のニーズ、施設のキャパ等のデータをもとに調整して県に報告することが当面の我々の目的となります。

これまでの中で、何かご意見やご質問はありますか。

委員 必要量を把握するのに当たって、地区毎の傾向値があった方がいいと思います。過去3年程の実績を載せた資料があれば、検討材料になると思います。

委員 ファミリーサポートセンター事業、一時預かり事業、延長保育の違いについて説明をお願いします。

事務局 延長保育は園の利用者のみが利用できるサービスであり、ファミリーサポートセンター事業、一時預かり事業は入園の有無にかかわらず、お子さんを一時的に預けられる事業となります。

会長 続いての議題に進みたいと思います。「議事3 教育・保育提供区域の設定」について事務局より説明願います。

— 事務局資料により説明（議事3. 教育・保育提供区域の設定について） —

会長 ご説明のとおり、多治見市としては小学校区を基準に考えていければと思います。

委員 小学校区の境で線引きが不明確な箇所があると思いますが、そのような場所はどうなりますか。

会長 どのご家庭も通っている小学校があり、実績として数値もありますので、それに基づいて設定すればいいと思います。

委員 区域設定について、小学校区を超えてバスで通園している園児もいるため、設定が曖昧になってくるのではないのでしょうか。

事務局 まずは、各小学校区で数値を出させて頂く中で、実態を見て、調整すべきところは調整させていただくことになると思います。

会長 次回の会議は3月17日（月）14:00から子ども情報センター集会室で予定しております。

以上をもちまして、第2回子育て支援会議を閉会させていただきます。